

3/11 東日本大震災・原
発事故、9/3 台風 12 号、
9/20 台風 15 号と大災害
に襲われました。

… 防災特集 1 …

- ・みらい会員が参加した、講座・講演会や定例会などでの学習内容をまとめました。
- ・これらの学習成果を踏まえ、**豊川市に提言**する予定です。

☆☆☆ 災害と男女共同参画 ☆☆☆

東日本大震災復興基本法（抜粋）2011/6/24

（基本理念）第 2 条 二

国と地方公共団体との適切な役割分担及び相互の連携協力並びに全国各地の地方公共団体の相互の連携協力が確保されるとともに、被災地域の住民の意向が尊重され、あわせて女性、子ども、障害者等を含めた多様な国民の意見が反映されること。この場合において、被災により本来果たすべき機能を十全に発揮することができない地方公共団体があることへの配慮がされるべきこと。

東日本大震災における女性視点・ニーズを反映した避難所での好事例 内閣府男女共同参画局（2011/5/23 時点）

1. 「女性専用スペース」の設置

給湯設備、打ち合わせテーブル、ソファ等を用意しており、湯沸し、着替え、授乳、お化粧、ドライヤーの使用など、様々な目的で人が常に集まり、和やかで、笑いの聞こえるスペースとなっている。この専用スペースの運営を県の男女センターの職員がコーディネーターとなり、地元の女性団体のグループがボランティアで運営。

2. 被災者支援のための雇用の創出

避難所での炊き出し、遺品や写真の洗浄をする人を役場で募集し、雇用。

3. 女性や子育てに配慮した避難所の設計

- ・快晴の日に畳や布団を干して、みんなで一斉に大掃除を呼びかけ、その機会に間仕切りを設置する工夫をした。
- ・土足厳禁エリアを徹底したことにより、風邪をひく人が減少し、ほこりも少なくなるなど、衛生面が改善された。
- ・乳幼児のいる家族だけが滞在する部屋を設置し、赤ちゃんの夜泣きや声や授乳など、周りを気にせず、お母さん同士の情報交換などにもつながった。
- ・女性専用の物干し場や男女別の入浴所・更衣室を設置した。
- ・女性や子どもはひとりでトイレに行かないように注意喚起を行っている。

4. 女性のニーズ等を反映した避難所の運営体制等

- ・避難所内で毎日女性リーダー会議を実施し、女性のニーズを反映させている。
- ・区長と婦人部が協議して避難所を運営、毎朝食時に 1 日の予定を協議している。



「災害と男女共同参画」 (特活) NPO 政策研究所専務理事 相川康子 (「ウィルプラス NO.72」より)

これまで「防災 = 男性のしごと」と考えられてきました。しかし、ここ数年、防災や復興分野での男女共同参画が重要視されつつあります。

「これまで地域に居場所が見出せなかった若者や、孤立しがちな高齢者・障害者、声をあげにくかった女性などが、震災を契機に地域づくりに主体的に参加することが重要である。とりわけ男女共同参画の視点は忘れてはならない。」

(6/25 東日本大震災復興構想会議「復興への提言 ~ 悲惨のなかの希望 ~」より)

災害時の女性の人權を考える際の視点

1. 女性を災害時要援護者と捉え、不利にならないように配慮
女性専用スペース確保 粉ミルク生理用品保管
2. 女性を防災や復興の主体と捉え、エンパワメント
防災会議や復興方策を検討する審議会等に女性委員の選定。
しかし、地域の防火訓練でも、女性をまとめて「炊き出し班」や「救護班」に回すことが多い。自立した存在に、さらには、救助側や中枢側の人材になれるように、リーダーシップ研修が必要。

防災・減災・復興における男女共同参画

1. 男女の体力差・置かれている状況（男性は弱音を吐けず、近所付き合いが苦手）に配慮し、阪神淡路大震災の失敗や悲劇（被災後の衰弱死は女性に多く、仮設住宅などに落ち着いてからの孤独死は男性に多い）を繰り返さないようにすることが大事。
2. 多様な視点が入れるということは、“想定外の穴”を埋め複数のセーフティネットを張る、ということ。



講演 被災地からの報告～求められる支援とは～ 2011/7/16 名古屋 YWCA 参加 2 名

講師 田端八重子（もりおか女性センター長）

2011年3月11日（金）14時46分。岩手県34市町村中、沿岸部12市町村が被災（35.29%）、内陸部と沿岸部の間に北上山系があり、公共交通機関と車が交通手段（片道150分要）

もりおか女性センターの取組

1. 性暴力をくいとめること
 - ・・・7/16現在 逮捕3件 婦人科聞き取り調査で2件
 - 現地ボランティアの女性学生向けちらしを大学・避難所等で直接配布
 - “洗面所トイレなどいつも4人で行動を！決して一人にならないこと！”
 - 市町村職員に性暴力防止への注意喚起 2～3週間後に女性警察官が現地入り
 - 女性の相談窓口開設準備
 - 緊急避妊ピル保管 内閣府相談事業対応として地元婦人科開業医へ協力依頼したが連携めず、関東近郊のセンターからピルをあずかり、厳重保管しいつでも届ける体制
2. 物資支援 必要な物資を全国の NGO、NPO、企業、団体、個人から搬入 仕分け、配送準備、運搬手配
 - 約束どおり届ける 支援金（6/3現在全国から55件）で物資購入。 スタッフ、保険加入。
 - ほしい人にほしいものを渡す
 - 県・市からの物資は公平分配。80個のおにぎりを100人の被災者には配布しない。
 - 女性下着、Mサイズしかなく取り替えずがまん。L/LL/XLを手配
 - 顔を見て確実に渡す
 - 非認定避難所、半壊した個人宅にも届ける。（県・市の物資は届かなかった。）
 - NGO NPO 企業 団体 個人と連携
 - 納棺師からの化粧品注文に、資生堂が100人分。
 - ユニクロ、衣類200箱。JOICFP（家族計画国際協力財団）から義援金。
 - 妊産婦への支援
 - 避難所では妊産婦の姿はなかった。移動していたのかもしれない。
 - 乳幼児への支援
 - 乳首が違つと飲まない、メーカー指定もあり。
 - 障害を持った人への支援
 - 小1、オムツメーカーにこだわりがあり3日間排便できず。
 - 高齢者への支援
 - 入れ歯喪失、生協におかゆ90食分を手配。
 - 3. 回復から自立に向けて
 - マンパワーの回復には、その人らしさ・こだわりを積み上げること、積み上げが多いほど回復速い。
 - エプロンがほしい、自分だけの石鹸がほしいという要求は非日常から脱するきざし。その要求を聴き、物資を届けることが回復支援。
 - 電話相談事業（内閣府との共同事業）「女性の心のケアホットライン・いわて」
 - 出前相談会 避難所で実施
 - 女性起業応援ルーム「芽でるネット」
 - 仮設住宅内の移動販売 高齢者の買い物代行・安否確認の請負 手作り弁当
 - 女性起業支援体制「ゆめかたる講座」 起業のための講座 パソコン講座
- 支援から見てきた避難所の問題点
 - ハード面に格差（授乳室 更衣室 性別トイレ 談話室などの設置に、ばらつき）
 - 不衛生
 - アルコール・ギャンブル依存 DV
 - 保守化した性別役割分担意識が妥当とされた。 ケア役割は女性。
 - 避難所で「集落は一家族」というリーダーの下では、間仕切りをしない。（プライバシーが守られない）
 - 野田村では3避難所で女性ががんばって間仕切りを設置。
 - 他県市町へ避難した人、“以前のように集落に入れてもらえるか不安”という。
 - 急性期の性暴力被害（痴漢 セクシャルハラスメント）
 - 思春期の子どもの問題行動（飲酒 性衝動）
 - 子どもの遊び場なし。
 - 障害を持った人の居場所、なし。
 - 障害にあわせた個別対応が必要。
 - 外国人女性の対応
 - ダンナ様がいるから大丈夫といい、要望しない。 通訳必要。
 - 多様な性を持つ人への対応
 - 我々のようなものには行き場がないという。

東日本震災の発生直後、東北三県では多い時で十八万戸の避難所に五十万人が身を寄せた。見も知らぬ同士が極限状態を生きる避難所は、必ずしも順調に運営されたわけではなかった。避難者たちは当時を振り返り「恥ずかしい話けど教訓になるなら」と避難所の裏側を語ってくれた。(沼田秋)

もめ事続出 疲弊する心

石巻・門脇中

「声が大きい者」強く

震災直後、宮城県石巻市の門脇中学校体育館には、千人近い被災者が押し寄せた。ぎゅぎゅと語め、みな、ひざを抱えて座るしかなかった。停電による暗闇で「年寄りトイレが近いから隣へこへ行け」「足を踏むなあ」と怒声が飛び交う。雪が降る中、体育館に入らなかった人はトイレ内でうずくまっていた。幼い子の泣き声が一晩中響き、学校中が殺気立っていた。

避難者の一人、山内季頼さん(ご)は「いやいやいられないと思って親戚や知人ごとに行った。一カ月も居候すると結局、避難所に戻るしかなかったけど、妹は避難生活の疲れで心を病んで入院した」と語る。

門脇中の臨時職員、宇都宮雅博さん(ご)も「以前はピンピンしていた母が、寒い避難所でずっと身動きが取れず、震災の三日後には一人で歩けなくなると打ち明ける。四月七日には敗血症で死亡。せつかく生き延びても、震災のストレス

に耐えられなかった人は多かった。

中学一年の菊地素直さん(ご)は、津波から逃れてJR仙石線の線路上で一夜を明かし、門脇中に避難した。それから三日間、一度もトイレに行けなかった。「水が流れず、汚いトイレに行くのがいやだった。飲み物も食べ物もできるだけ取る

ず、体も動かさないようにして我慢した。めちゃくちゃおなか痛かったけど、まだあけない顔をあげませんでした。プールの水をトイレに流すようになって、ようやく行けたという。菊地さん一家は四月の間、調理室で寝起きする生活を続けた。

門脇中の教室でリーダーを務めた中島洋明

さん(ご)は「もめ事一番の要因はスペースの広さと位置の問題。みんな風通しがいいところや温かいところに行きたがった」と振り返る。

教室内にびきびきびどい人がいて、周りの安眠の妨げになったことがあった。中島さんは本人以外の全員を回り、「絶対に向き向か

男女共同参画社会の実現は、どんな時でも、どんな場でも、求められています！！

名工大北川啓介准教授によれば、『良好な人間関係のある避難所は、震災前の日常の時間を取り戻すことを大切に、憩いの場を設置するなど住民参加型のまちづくりのような運営をしていた』そうです。(中日新聞 2011/10/10 朝刊)

障害や年齢に関係なく男女が対等な立場で避難所運営に関わるならば、この記事のような事態は起きません。災害時を乗り越え、復興の力を生み出すには、男女共同参画を平常時から意識し地域に根付かせることがキーポイント！！



「こころをい」と言っただけで、子どもたちは牛乳をパンしか食べられない中、避難所から炊き出しのいい匂いがしてきた」と語る。炊き出しを給食にするには食品衛生法に抵触する。「おまけに、余った食事を捨てているのを見せられ、子どもたちは気の毒だった」

門脇中では率先して「避難所では、声の大きい者が、強い者勝ち」にならず、主に年長者が選ばれた。中には、倉庫にある支援物資を自分好みの人や協力的な人だけに配るリーダーがいた。見かねた市職員が倉庫の鍵を管理するようになり収まった

が、その後も「その物資を取り出して分配していた。ある避難者は「人気取りのためにそのままやるからあきらめた」と憤る。市内の別の小学校では、学校生活と避難所の共存の難しさが浮き彫りになった。授業が再開すると、子どもたちの声を「こころをい」と怒る避難者がいた。一方、女性教諭は「給食が再開したまらり

「極限状態の団体生活」という意味では、戦争中とおなじだよ」と話し、自戒を込めた。「すべてのトラブルは個人のわがままに尽きた。二、三人だけじゃ怖くて言えなくても、みなで団結すれば立ち向かえたかもしれない。その勇気が必要だった」

【中日新聞 2011/10/10 朝刊
「第18回避難所の誕生」より】

☆☆☆ 豊川市の防災対策 ☆☆☆

近い将来、東海地震と東南海地震が同時発生すると予測されています。震源域は串本沖から駿河湾沖。東日本大震災と同様のプレートのひずみによって起こる海溝型地震。「豊川市地域防災計画」はH23/8月に修正されましたが、東日本大震災を踏まえておらず、国・県の指針を見据えてH24/3月に再度修正される予定です。

東海・東南海地震、同時発生を想定

(「豊川市地域防災計画」<http://www.city.toyokawa.lg.jp/ufile/safe/18943.pdf> より)

規模	マグネチュード 8.2				
震度(面積率)	7 0%	6 強 6%	6 弱 32%	5 強 62%	5 弱 0%
液状化(面積率)	極めて低い 74%	低い 6%	高い 7%	極めて高い 13%	
津波最高水位	1.9~2.1m 注:H23/10/2 名古屋大川崎准教授、御津地区で最大5メートルと発表				

人的被害	5時発生	死者	約50人	負傷者	約890人
	12時発生	死者	約10人	負傷者	約600人
	18時発生	死者	約40人	負傷者	約690人
	帰宅困難者		約10,480人		
1日後の避難生活者数	自宅建物被害による避難		約2,240人		
	ライフライン支障による避難		約9,810人		

(豊川市パンフレット「地震に備える!」より)

自助

自分の身を自分の努力で守る

1. 備え
 - ・家庭防災会議を!
 - ・非常備蓄品 ...一人当たり3日分の食料と水(一人当たり一日3?)
2. 情報収集
 - ・豊川市防災メール
 - ・緊急地震速報
 - ・防災行政無線 テレホンサービス 0180-995-550
3. 運転中に発生
 - ・道路左側に駐車しエンジン切る
 - ・カーラジオで情報収集
 - ・キーをつけたままロックせずに徒歩で避難(車検証等貴重品の持参)

1. **自主防災組織**は、自分たちの地域は自分たちで守るという自覚、連帯感に基づき、自主的に結成する組織。災害被害を予防し軽減するための活動を行う。
 - ・その際、**女性の参画の促進**に努める。(「豊川市地域防災計画 P6」より)
2. **避難所**(市内100ヶ所)運営
 - ・発災1日以内...市担当職員が安全を確認し開設・広報・運営
 - ・2日目以降 ...**避難者が主体的に運営** ・3日目以降 ...**物資が動き出す**
3. **地域ボランティア支援本部**
 - ・本部はウィズ豊川、現地本部は各支所
 - ・運営主体は**災害ボランティアコーディネーター**(現在、市民228名 人員増のため養成中)

共助

地域や近隣の人がお互いに協力

公助

行政 消防機関による救助 援助等

- ・豊川市の備蓄食料... 1日2食3日分・アレルギー対応食あり
- 12,000人の避難を想定

➡ 出前講座 「災害時の避難生活」

2011/7/21 ウィズ豊川 参加10名

講師 松倉秀明(豊川市消防本部防災対策課防災対策係)

豊川市の防災対策 ... 原発事故対策は盛り込まれていない。

備え 自助 7 : 共助 2 : 公助 1

耐震診断 S56年建築基準法改正(震度6強に耐える構造に) それ以前のものには耐震対策が必要

備蓄品 保管場所...市役所・小中学校等の防災倉庫。旧宝飯4町は町内会単位で保管場所を確保していたが、合併によりそれまでの備蓄品は町内会所有とした。

備蓄食品...賞味期限の1年前のものは自主防災会の活動に使用

要援護者 要介護認定者 高齢者 妊婦 子ども 外国人 障害のある人 傷病者 旅行者
町内では、介護従事者・民生児童委員と連携しながら、普段から交流して支えあう。

避難所 運営は避難者。他町内・他地区の避難者も排除しない。

運営委員に女性がいることが好ましいので、積極的に登用。